

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース
- 3面 読者のページ/まんが/短歌
- 4・5面 戦争か平和か 軍事か暮らしか 私が決める!/ジェンダーリレー講座/ホットライン
- 6面 水出し台湾茶/母の歴史
- 7面 新婦人のページ/主張/学校給食



新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです



新潟県十日町市松之山水梨の棚田 (とっとこ農園・相澤堅さん提供)

ロシアによるウクライナ侵略に加え、アベノミクスの失敗による異常な円安で食料価格が高騰し、暮らしが圧迫されています。食料の6割以上を海外から輸入するもさそも浮き彫りに。食料をめぐる世界と日本の状況について、資源・食糧問題研究所代表の柴田明夫さんに聞きました。



柴田 明夫さんに聞く
資源・食糧問題研究所代表

しばたあきお 1976年に丸紅株式会社に入社。2001年に丸紅経済研究所主席研究員、06年所長、代表を経て、2011年に(株)資源・食糧問題研究所を設立、代表に就任。著書に「扼殺される日本の農業」(F B出版)他多数。

食料の複合的危機 いまこそ国内増産へ

かし、日本政府の対応は、一過性の現象との判断から、何の対策も取りませんでした。

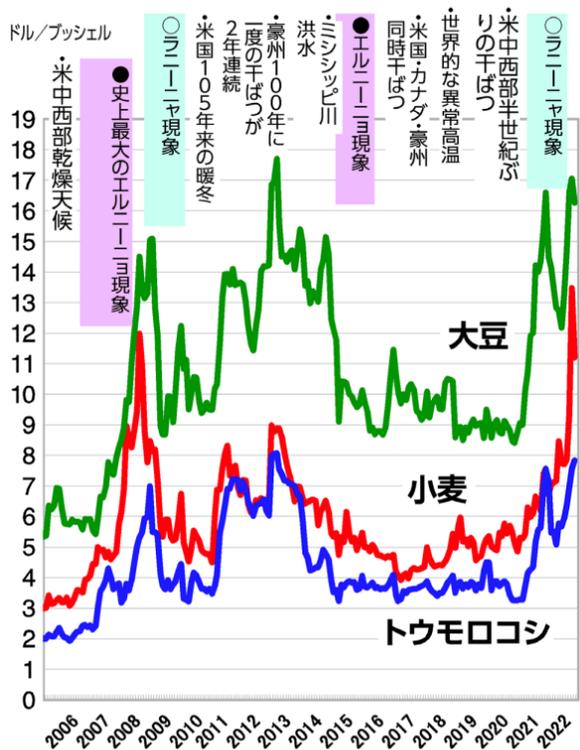
温暖化による
生産減少

資源・食糧問題研究所代表
柴田 明夫さんに聞く

以前も高騰に対応せず
3月には小麦価格がこれまでの最高値を超え、大豆やトウモロコシも最

高値に接近しています。実は、輸入割合が高いこれらの穀物は、今回のロシアによるウクライナ侵略の前から値上がり傾向がありました。

上昇し続ける穀物価格(シカゴ穀物市場動向) 過去最高を更新した小麦、急騰する大豆、トウモロコシ



資料提供: 柴田さん

穀物価格が最高値を記録した2008年と2012年は、異常気象による生産の減少に加え、石油生産の不足を補うためとしてアメリカ国内でトウモロコシや大豆のバイオ燃料への流用が高まりました。また、人口の多いブラジル、中国など急速に経済発展を遂げた新興国で食肉の消費が増え、そのための飼料穀物の需要が増え続けていました。

穀物価格の上昇はその後落ち着きますが、元の水準には戻らず推移しました。2015年には脱炭素社会をめざすパリ協定が結ばれ、気候対策の強化が打ち出されましたが、世界各地では異常気象が頻発し、激化しています。

直近の2年間にも、中国で洪水、欧州で干ばつが発生し、南米ではトウモロコシや大豆の生産減、アフリカ東部で穀物を食べつくすサバクトビバッタの大量発生、アフリカ豚熱や鳥インフルエンザの流行など、温暖化による気候変動の影響が広く現れ、食料生産が不安定化しています。

価格が高止まる恐れ

食料を含む様々なものが世界規模で、ひと続きの鎖のようにつながって流通し、どこか1カ所でも切れれば、たちまち供給が滞ってしまいます。

世界では、大豆やトウモロコシなど単一の作物が大規模に自然の収容力を超えて生産されたり、熱帯雨林を切り開いて環境を破壊し続けた結果、生産力低下や気候危機をさらに深刻化させています。

食料確保は輸入拡大でと

食料自給率が過去最低の37%と、約6割を海外からの輸入に頼っている日本で、政府はこれまで食料確保について、1999年に制定された食料・農業・農村基本法の中で、「食料を合理的な価格で安定的に供給するために「生産力、備蓄、輸入を組み合わせる」と説明してきました。しかし実態は、国内生産を増やすより、輸入する方がコストが下がり、食料安全保障に資する、と輸入を拡大してきました。

2022 参院選

7月10日投票

#選挙に行こう

<4・5面>

